

意欲を持って、適切な根拠を選択しながら
論理的に話すことができる生徒の育成
—教科横断的な学習課題に対する「話すこと・聞くこと」の活動を通して—

特別研修員 国語 中村一城(中学校教諭)

意欲を持って、適切な根拠を選択しながら、論理的に話すことができる生徒

○手立て
ワークシートの工夫

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	

ディベート

- ① ディベートの映像を見て、細かなルールを確認する。
- ② 別のテーマでディベートの練習をし、班と立場を決定する。
- ③ 根拠を収集し、ワークシートを基にディベートの準備をする。
- ④ ディベートの実践

○手立て
時間設定の工夫
「作戦タイム」



- ・根拠を述べる順序、適切さを考える。

- ・根拠を収集し、どの順序でどんな根拠を提示するとより論理的かを考えて準備をする。

○手立て
意欲を喚起する
教科横断的な学習課題
(国語×社会)

- ・相手からされる質問や提示してくるであろう根拠を事前に予想し、それに対する準備をする。

・関ヶ原の戦いで、石田三成に付くか、徳川家康に付くか。

・徳川家康が幕府を開くのは、京がよいのか、江戸がよいのか。



- ・矛盾点、根拠の不足を論点に質問する。

生徒の実態：意欲を持ち、根拠を示しながら、論理的に考えを伝えることが苦手

成果

- ・教科横断的な学習課題は、単元を通して高い意欲を維持して活動することにつながった。生徒たちは根拠の収集を家庭学習でも行い、リハーサルなども積極的に行っていた。
- ・ワークシートの工夫は、適切な根拠の選択、論理的な話の構成につながった。また、「作戦タイム」という時間設定の工夫が適切な根拠の精査と論理的に話すことにつながり、深い内容のディベートができた。

課題

- ・調べた根拠をそのまま述べるのではなく、自分の言葉として述べ、説得力を増そうと意識していたが、十分には達成できなかった。そこで、話し方の例を事前に示すなどの工夫が必要である。